

「テサロニケの教会へ」

2018年11月10日

テサロニケの信徒への手紙 ー 1章1節 パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストとに結ばれているテサロニケの教会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるように。

パウロは、シラスと一緒にアンティオキア教会から送り出され、第二宣教旅行に出発した。陸路で、シリアから、キリキアを通り、ガラテヤ地方のリストラにきた。この地で、パウロは評判の良い若者テモテと出会い、彼を第二宣教旅行に同行させた。北のピティニア州に入ろうとしたが、聖霊に禁じられ、西のトロアス（現在のトルコの西岸）に下った。その夜、パウロは、一人のマケドニア人が幻に立って、「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」という声を聞いた。神からの召しと確信し、トロアスから地中海を渡り、マケドニア州に向かった。エルサエム、シリア、小アジア（トルコ）から、ヨーロッパへと伝道が開始される歴史的な転機を迎えたのである。

ローマの植民都市であるフィリピに行き、ユダヤ人の祈りの場所と思われる川辺で、婦人たちにキリストの福音を語った。紫布を商うリディアが心を開き、家族で洗礼を受けた。ヨーロッパでの初穂である。ところが、パウロたちはフィリピでは許されない風習を宣伝した咎で、攻め立てられ、鞭打たれ、投獄された。その夜、大地震が起こり、鎖が外れ、囚人たちは逃亡できたにもかかわらず、パウロとシラスの賛美の歌を歌い、祈る姿を見て、逃げなかった。囚人が逃げなかったことに、看守は感動し、パウロの「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」の言葉を聞いて、家族共々洗礼を受けた。翌朝、釈放されるが、ローマの市民権を持つ者を鞭打ち、投獄し、ひそかに釈放するとは許せないとパウロたちは抗議した。市の高官たちは慌てて、詫びた。パウロ、シラスは牢を出て、テモテを伴い、地中海に面したアテネに次ぐ大都市テサロニケに向かった。

テサロニケにはユダヤ人の会堂があり、パウロはいつものように、安息日に三回にわたって出かけ、「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」、また、「このメシアはわたしが伝えているイエスである」と説明し、論証した。すると、ある者たちが信じ、ギリシア人のユダヤ教徒、また、主だった婦人たちが、パウロとシラスに従った。しかし、ユダヤ人たちは妬み、ならず者を巻き込んで暴動を起こした。福音を信じたヤソンの家を襲い、大声で、「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。ヤソンは彼ら（パウロ、シラス）をかくまっているのです。彼らは皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています」と騒ぎ立てた。これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。テサロニケの兄弟たちは危険に感じ、夜の内に、パウロとシラスを次の町ベレアに直ちに送り出した。

パウロの福音宣教は、どの町に行っても騒動を起こした。福音の真理を受け入れるか、拒否するかを厳しく問うたからである。パウロは実存に鋭く問いかけ、人間を解放する変革を説いたのである。パウロはシラスとテモテをベレアに残し、一人でアテネに向かい、アテネの哲学者たちへの宣教で挫折し、コリントに辿り着く。ここで再び二人と合流し、パウロは、テサロニケ教会を案じ、テモテを遣わした。テモテの報告は、「あなたがたの信仰と愛について、うれしい知らせを伝えてくれました」という嬉しいものであった。パウロは喜び、教会からの信仰上の質問にも答えようと、Iテサロニケ書を認めた。信仰の喜びを前面に出して、「生活の座」からの福音を生きよとの励ましの内容である。